

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200627		
法人名	医療法人社団 小羊会		
事業所名	グループホーム横戸		
所在地	千葉県千葉市花見川区横戸町1123-4		
自己評価作成日	平成29年3月23日	評価結果市町村受理日	平成29年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成29年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・訪問医療と連携をとり入居者の尊厳に十分配慮しながら終末期の介護について心をこめ行っている ・アットホーム的なホームを目指し入居者が毎日笑顔で安全に生活できるよう、またのびのびと生活をしていただくために一人ひとりの現状にあった支援ができるようサービスの提供をしている。”入居者第一”という考えを常に忘れずに持ち支援を行うよう努力している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年6月オープンで、花見川区内でもグループホームがまだほとんどない極初期に開設されたホームである。開設当初から見ると入居者の介護度も格段に高まり、特に昨秋からは5名の方が亡くなり内3名をホームで看取る等職員の負担も増加しているが、管理者はじめ経験豊富な職員により、明るく本人本位をモットーに支援が行われている。持病のある方の健康管理には医師とも連携しながら、医療的側面だけでなく、QOLを大切にされた本人の希望するライフスタイルを継続できるように努めている。同じ医療法人運営の透析クリニックが同一敷地内にあり、現在5名の入居者が介護を受けながら週3回の透析に通っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①入居者が感情豊かに ②持っている力を十分に発揮し ③支え合い ④地域住民として社会参加する という4項目の理念を掲げ実践に繋げるよう共有している。理念には掲げていないが、入居者第一ということも常に考え支援にあたっている。	離職が少なく管理者はじめ職員の勤続は長い。職員に理念が浸透しており、どんなに多忙であっても入居者の気持ちを最優先して、本人本位の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会未加入だが、近隣に散歩や買い物に行ったりしている。また、できる限り散歩にでかけ散歩しながら挨拶も欠かさず行うよう心がけている。	一般住宅とはやや離れたロケーションであるが、近くの道の駅やコンビニには入居者とともに良く通っており、馴染みとなっている。緊急時の協力が得られる関係もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム看板にも、介護相談の受け入れを掲示している。実際に電話連絡があり説明もを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や行事の報告や現状を話している。家族からの要望や意見を聞きだし、サービス向上に活かそうとしている。	運営推進会議は家族中心に、介護相談員の参加も得て年3回開催している。家族の参加が得られやすい夕刻や休日の開催が多い為、地域包括支援センターや市職員の参加はない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所が行う集団指導や講習会に参加した。千葉市GH連絡会に加入し市との交流会にも参加し関係を築くよう取り組んでいる。	市役所主催の行事や講習会、千葉市グループホーム連絡会行事に参加し、コミュニケーションを取るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず、年に1回は身体拘束についての勉強会をホーム内で行っている。玄関の施錠も含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定例会議で毎月職員研修を行っているが、年に1度は必ず身体拘束廃止についての研修を実施し理解を深めている。対応の迫られる入居者にはセンサーの設置や、本人に寄り添って「気持ちを落ち着かせること」を第1としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、年1回ホーム内で勉強会を行っている。虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び個々の必要性を関係者と話し、実際に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、ご家族が納得いくまで説明を行い質問や不安なことも尋ね理解を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族も何でも話せられるような環境・信頼作りを務めている。1か月に1回の全体会議・ユニット会議で話し合いを行い運営に反映させるよう努めている。	本人本位の支援をモットーとしており、入居者・家族の意向を都度確認し運営に反映している。毎月全家族に一人ひとりの状況につき手紙を出す等、家族との連携に努めている。運営推進会議も家族中心に実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見の言いやすい環境作り努めようとしている。1か月に1回の全体会議・ユニット会議で話し合いを行い運営に反映させるよう努めている。	毎月全体会議に続いてユニット会議を原則全員参加で開催し、意見を出し合っている。職員からもなんでも話し合える、多忙ではあるが働きやすい職場との声も聞かれ、職員のモチベーションは高いが、人材確保が厳しい状況にある。	管理者の熱意とリーダーシップは高く評価できるが、ホーム独自では解決できない事項も多いと考えられる。特に人材確保面では、さらに法人本部の支援を得た取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与が年3回あり、その時には個々で自分の評価を行い自分のアピールをできるような評価方法をとっている。また、現に今年3名のパートスタッフが正社員となった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでも月に1回勉強会を行っている。また、法人でも年1回講師を招き研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市GH連絡会に加入しできる限り集まりには参加し交流を図っている。また職員は、法人内ではあるが他事業所の人達ではあるが情報共有をできるよう年2回交流が持てる場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前には必ず、ご本人に会い面接を行い話を聞くようにしている。本人の困っている事や不安なことを聞き取れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の望むこと、不安なこと、本当の気持ちを引きだせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	”その時”必要としている事を見極め、スタッフと話し合いを十分に行い柔軟な姿勢で対応するように努めている。悩んだらまずやってみようで行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にも、生活での役割をもってもらい、スタッフは感謝を持ち暮らしを共にしているように生きがいを持ってもらうように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるところは、故家族にもお願いし協力していただいている。また、ホームに来やすい環境を作り信頼関係も大切にしていけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知り合いがまた行こうと思ってくれるような環境作りに心がけている。	親族や友人・知り合いの来訪が多く、和やかな雰囲気作りを心掛けている。囲碁仲間が度々訪れ自室での対戦を楽しんだり、家族と外出し、馴染みの美容院やカラオケ、外食を楽しむ方も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格を把握し入居者同士の架け橋にもなりお互いに良い関係を築けるように支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り介護をすべて行っている。看取り介護終了後もご家族との関係は良縁である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り一人ひとりtお寄り添う時間を設け本人の思いをくみ取るように努力をしている。入居者から感じた事をスタッフ同士で共有し話し合い検討している。	一人ひとりに寄り添い日々の会話の一言や表情から、本人の思いを把握している。感じたこと、気付いたことを申し送りや個人ケース記録に記録し情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活がどのような生活をしていたのか本人・家族に聞き取り支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフの情報、意見を大切にしまた、毎日記載している個人ケース記録をもとに情報共有も行い1日の過ごし方や身体状態の現状にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ある、ユニット会議にて1人ひとりの現状やケアについて話し合いご家族や本人の意見も聞き介護計画を作成している。	毎月のユニット会議では、個人ケース記録を基に、カンファレンスが行われ、ケアマネジャー中心に、本人・家族の要望を聞き、介護計画が作成される。モニタリングは1ヶ月毎行われ、状態の変化の有る時はその都度見直しされる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録はありのままを記載し職員同士で共有できるようにしている。また職員同士で意見交換ができるように意見交換用のノートも作り共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度必要なニーズに合わせ支援を行っている。病院受診・買い物・外食・散歩等柔軟な対応をできる限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市で利用できるサービスは把握し利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人にあったかかりつけ医を提供し本人、家族に納得の得られるように情報も共有し支援を行っている。	母体の医療法人の運営する訪問診療医の来診は月2回あり、主治医の選択は本人の希望にゆだねている。看取りの段階で訪問診療医に切り替える方もいる。歯科医、眼科医の往診、週3回看護師の健康チェックや相談を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師が健康チェックを行い助言や相談にも行ってくれる。また、看護師が主治医と連携に努めてくれスムーズな対応が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心とし、病院の相談員と情報交換を行いできる限り、早期退院ができるように話し合いをおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては、契約時にどのような考えをもっているのか伺っている。また重度化した時にその時の考えを再度家族に聞き、家族、医師、看護師、ケアマネ等関係者で集まり、話し合いを行っている。	契約時に終末期の対応について説明し同意を得ている。昨年11月以降何人かの方をホームで看取っており、職員は利用者・家族に寄り添い、最善の支援に取り組んでいる。透析を受けている方は制度上ターミナルケアとの併用ができず、入院を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを作成してあり、定期的に会議でも取りあげ再確認を行い共有している。看護師からもその時の注意点を記載してもらいスタッフ間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定を行い年2回避難訓練を行っている。地域の方には緊急連絡網作成の作成にも協力いただいている。隣接のクリニックとの協力体制もお願いしている。	消防署指導の避難訓練を年2回行っている。初期消火や避難経路を利用者も参加し何分で避難できるか確認している。隣接のクリニックとの協力体制が有る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行っている。プライドやプライバシーを損ねないように対応には注意をしている。	親しい中でも慣れ合いの関係にならないように、心配りがされている。プライバシーを確保した声掛けや羞恥心への配慮に心掛け、一人ひとりを尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず思い、どうしたいかを本人にも聞き確認をし本人も決められるように話をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床する時間が遅ければそれに合わせ食事を用意したり、体調に合わせた支援も行っている。本人の希望をできる限りそって支援できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時は必ず髪を整えたり、1か月半に一度は訪問美容室のヘアカットをお願いし髪を整えてもらっている。外出時やイベントの時はスタッフと一緒に服を選んだりしている。洋服も買いに行き、洋服選びも楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り暖かい物を提供できるように努力している。入居者のリクエストも聞き要望に応じている。外食はもちろんのこと、ホームでも、鍋やホットプレートを使い皆で囲み楽しい食事時間も提供している。	食事は外部から供給を受けているが、透析の方の制約食など利用者ごとの事情に応じた献立や食事形態で、提供している。リクエストを聞き外食したり、リビングでお鍋やホットプレートを囲み楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えて献立を提供している。一人ひとり食べやすいように食事形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアの支援を行っている。必要な方には、歯科往診を頼み口腔ケアも行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記載を行い、その方の排泄パターンを母くできるようにしている。極力、トイレでの排泄を行ってもらう為に、2時間おきのトイレ誘導やその方に合った時間で誘導を行っている。排泄介助はできる限り不快のないように支援するように心がけている。	排泄表により、一人ひとりの特徴をつかみ、無理強いしない誘導でトイレでの排泄ができている。プライバシーに配慮した細やかな気遣いで自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた支援を行っている。運動や腹部マッサージなども取り入れ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方は、毎日入ってもらっている。週3回は入ってもらえるよう支援を行っている。季節での柚子湯や菖蒲湯、色々な種類の入浴剤を用意し香や色なども楽しんでもらえるようにしている。	週3回を目安にしているが、毎日入浴する方や朝風呂、夜寝る前等様々である。透析の方は通院の無い日を選ぶなど柔軟に対応している。着替えから入浴まで一人の職員が対応し30分～40分ゆっくりと入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回はリネン交換を行い清潔を保っている。陽気の良い日には外に布団を干し太陽のぬくもりを感じ心地よい入眠を促せるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師に居宅量監視指導を行ってもらっている。薬の管理や副作用等、分からないことなど相談にのってもらえ症状等の確認も務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方には家事仕事を行ってもらったりその方その方で色々な役割を行ってもらっている。毎月、行事も開催したり買い物や外食も楽しみの一つになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、その方の要望が聞けるように支援にあたっている。家族にも協力してもらい外出支援に努めている。	健康状態により日常的な外出が減少する中、ホームの広い梅園ではベンチに座って外気浴や、談笑などを楽しみ、外の空気を吸うことの工夫がされている。外出は少人数で希望に添えるよう計画され、季節のお花見やイチゴ狩りにまた外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる方は、小さな額をご自分で持ち管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置してあるため、電話したい方は公衆電話を利用し電話をしてもらっている。また、手紙のやり取りの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置いたりと皆がくつろげるような環境作りを行っている。季節を感じてもらえるように季節の花が窓から見えるように植えたり生けたりしている。ひな人形や、こいのぼりなど季節にあった物の飾りも行っている。	リビングは畳敷きのある1番館、高い天窓のある2番館、とそれぞれ特徴がある。利用者の作品や写真を飾り、ベランダからは、梅林や季節の花を眺めたり公園に居るような季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個々に個室になっているため一人になれる空間もあり、皆と話もできる空間作りも用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで、使い慣れていた物や馴染みの物を持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせる工夫もしている。	広く清潔な居室はクローゼットが作り付けされている。部屋に仏壇を置いている方、テレビや冷蔵庫を持ち込んで、自由に居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全なバリアフリーであり平屋である。自立されている方は一人でも庭に行けるような環境を作ったり、廊下全てに手すりもつけ安全に歩けるように配慮している。自分でできること、分かることなどを職員が把握し自立した生活が送れるよう支援している。		